

10月の県内景況調査結果の概要

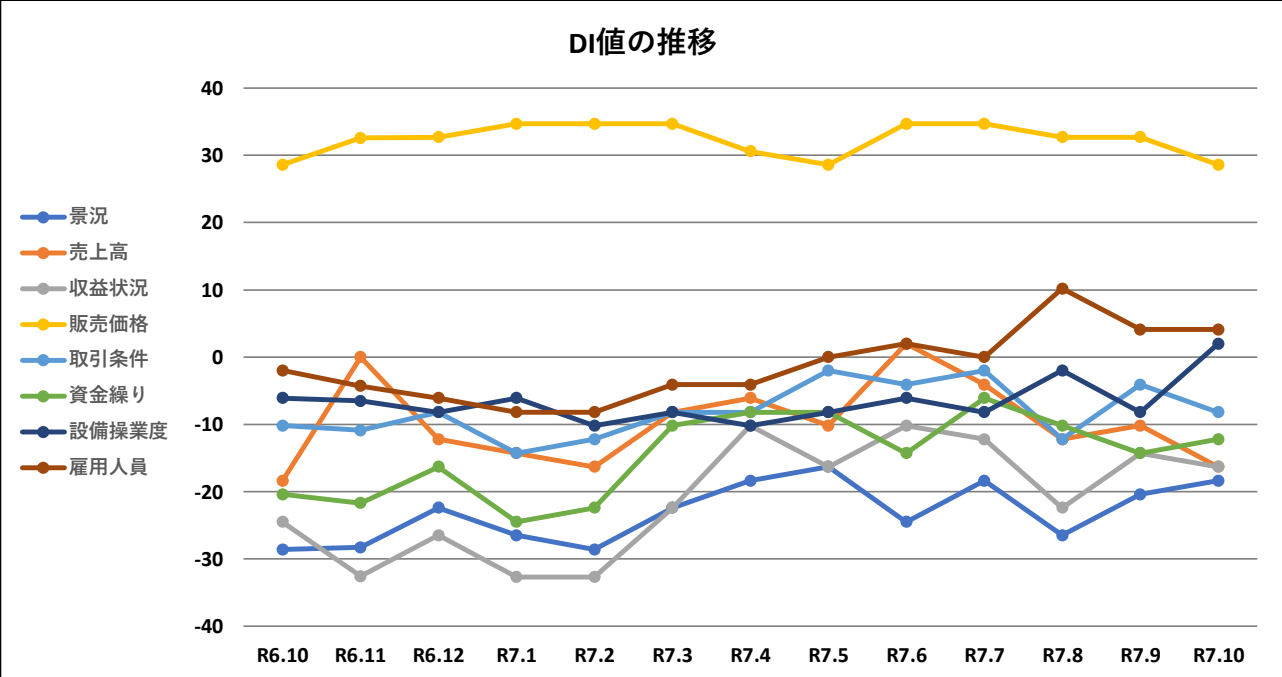
1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

令和 7 年10月の D I 値は 8 指標中、「景況」「資金繰り」「設備操業度」が上昇、「雇用人員」が横ばい、「売上高」「収益状況」「販売価格」「取引条件」が下落となった。

2. 県内中小企業の景気の現状

県内中小企業の景況は回復基調にあるが、物価・人件費等の高騰や人手不足に加え、消費低迷が続いている。製造業では、味噌の生産・出荷は前月比で増加したが前年を下回り、夏場の低調をカバーできていない。縫製業は若手確保が難しく、熟練者の引退で技術継承が危機的。機械トラブルも相次ぎ、部品供給停止が増えている。木材関連は住宅着工減で需要が弱く、需要低迷や機械老朽化による廃業も生じている。印刷業は紙離れと原材料・人件費高騰の影響で経営への圧迫が続いている。生コンクリートは大型工事の減少や資材高で出荷が伸び悩み、厳しい状況。鉄鋼・金属は概ね横ばい。卸売業では、令和 7 年産の米の概算金が高く価格が硬直化。小売業はインバウンドやイベントにより売上が安定しており、チェーン店で衣料品が好調。畳業は産地の水害の影響で材料入荷が減り在庫が少ない。商店街は重衣料が動かず客単価が上がらない状況。電気小売では2027年末蛍光灯生産終了によりLED化の問合せが増加。サービス業では、自動車整備で中古車は堅調だが新車は減少し、コスト上昇分の価格転嫁が進まず利益を圧迫。宿泊業は西部でインバウンドが増え、市内でも稼働率が増加。旅行業は法改正や人手不足で利益増に繋がらず、後継者不足で廃業も生じている。建設業は工事件数が減少。運輸業はドライバー不足が深刻化している。

	R6.10	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	前月比
景況	-28.6	-28.3	-22.4	-26.5	-28.6	-22.4	-18.4	-16.3	-24.5	-18.4	-26.5	-20.4	-18.4	2.0
売上高	-18.4	0.0	-12.2	-14.3	-16.3	-8.2	-6.1	-10.2	2.0	-4.1	-12.2	-10.2	-16.3	-6.1
収益状況	-24.5	-32.6	-26.5	-32.7	-32.7	-22.4	-10.2	-16.3	-10.2	-12.2	-22.4	-14.3	-16.3	-2.0
販売価格	28.6	32.6	32.7	34.7	34.7	34.7	30.6	28.6	34.7	34.7	32.7	32.7	28.6	-4.1
取引条件	-10.2	-10.9	-8.2	-14.3	-12.2	-8.2	-8.2	-2.0	-4.1	-2.0	-12.2	-4.1	-8.2	-4.1
資金繰り	-20.4	-21.7	-16.3	-24.5	-22.4	-10.2	-8.2	-8.2	-14.3	-6.1	-10.2	-14.3	-12.2	2.1
設備操業度	-6.1	-6.5	-8.2	-6.1	-10.2	-8.2	-10.2	-8.2	-6.1	-8.2	-2.0	-8.2	2.0	10.2
雇用人員	-2.0	-4.3	-6.1	-8.2	-8.2	-4.1	-4.1	0.0	2.0	0.0	10.2	4.1	4.1	0.0



徳島県 中央会情報連絡員報告総括表 (令和7年10月)

情報連絡員数	49	名	回答者数	49	名	回答率	100.0	%
--------	----	---	------	----	---	-----	-------	---

業界の景気動向(前年同月比)

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員			業界の景況		
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
製造業	食料品	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0
	繊維工業	0	1	1	0	1	1	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	2	0	0	1	1
	木材・木製品	0	3	3	2	3	1	1	5	0	0	6	0	0	4	2	0	5	1	1	4	1	0	5	1	0	3	3
	紙・紙加工品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	印刷	0	0	2	0	2	0	2	0	0	0	1	1	0	0	2	0	2	0	0	1	1	0	2	0	0	0	2
	化学・ゴム	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	窯業・土石製品	1	0	1	0	2	0	2	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0	1	1	1	0	0	2	0	1	0	1
	鉄鋼・金属	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0
	一般機器	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	電気機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	輸送機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		1	12	7	2	16	2	5	15	0	0	19	1	1	13	6	1	16	3	2	15	3	0	19	1	1	12	7
非製造業	卸売業	1	2	0	1	2	0	1	2	0	0	2	1	0	2	1	0	2	1				1	2	0	0	2	1
	小売業	0	5	2	0	6	1	3	3	1	0	5	2	0	5	2	0	6	1				0	7	0	0	7	0
	商店街	0	2	1	1	2	0	2	1	0	0	2	1	0	2	1	0	2	1				0	3	0	0	2	1
	サービス業	3	2	2				1	6	0	0	7	0	0	6	1	0	6	1				1	6	0	0	7	0
	建設業	1	4	1				2	4	0	0	6	0	1	5	0	0	5	1				2	4	0	0	5	1
	運輸業	0	2	1				1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0				0	2	1	0	3	0
	その他	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0	0	0	0
小計		5	17	7	2	10	1	10	18	1	1	24	4	2	22	5	1	23	5				4	24	1	0	26	3
合計		6	29	14	4	26	3	15	33	1	1	43	5	3	35	11	2	39	8	2	15	3	4	43	2	1	38	10

〔景況関連の報告〕

【製造業】

<食 料 品>

1. 味 噌・みその生産量は、前月比108.3%と大幅に増加したものの、前年累計比99.5%でほぼ前年並みの水準。出荷量は、前月比108.9%と大幅に増加したが、前年同月比98.2%、前年累計比98.6%と前年を下回る水準であり、夏場の低調をカバーしきれていない。物価高騰と消費低迷が出荷量減少に大きく影響しており、年末の需要期に向けて今後の消費動向が注目される。

<繊維・同製品>

2. 縫 製・縫製工場では、労働賃金の低さや厳しい労働条件から、若手の確保が困難になっています。熟技術者の高齢化と引退が進む一方で、後継者の育成が追いついていないため、貴重な縫製技術が失われるリスクが高まっています。この人手不足は、縫製業界全体の根源的な課題と認識されており、積極的な採用活動や外国人技能実習生の活用など、多角的な対策が求められています。
3. 縫 製・引き続き、仕入他諸経費の増大が激しいにもかかわらず、売値に反映できない状態が継続中。工程設備については、日本国内で調達不能の機械のトラブルが続いている。メーカーより部品供給廃止の機械も増え、将来の部品備蓄計画も急務となった。人材確保手段として、特定技能の縫製業として、JAIMに加入申請中である。結構、待たされる状況を政府には改善してほしい。

<木材・木製品>

4. 製 材・木造住宅での木材需要が低迷する中、市場等では製品の動きが悪い。県内外で丸太出材が少ないが価格はあまり上がっていない。国有林の丸太販売も減っているようだ。プレカットは建築確認の遅れがやや解消し操業度は上がっているものの、年末に向け先行きは厳しい予想。製材所は温度差があるが、忙しいところでも資材・燃料費が高く利益率が低くなり、難しい経営が続いている状況。需要低迷や機械老朽化で廃業する事業所もある。
5. 製 材・住宅着工の減少により引き続き厳しい状況が続いている。
6. 木 材・10月分の木材流通動向としては、8月～9月までよりは、若干回復基調に転じたと思われます。しかしながら微々たるもので今後の回復に期待したいと思っております。

<印 刷>

7. 印 刷・10月も売上が振るわず、引き続き厳しい月となった。価格転嫁には一定の理解を得ているものの、ここ数年、人件費や原材料費、エネルギー費の上昇に伴う度重なる値上げが続いている。その影響で、顧客も疲弊し、予算の削減や仕様の見直しが増加している。さらにデジタル化やペーパーレス化の流れが加速して紙媒体の減少に拍車がかかる。景気回復の兆しが見られない中での人件費高騰は経営に対する圧力を一層強めている。付加価値の創出やさらなる生産性の向上の実現が、これまでに以上に重要になってきている。
8. 印 刷・当月は、比較的売上・収益とも安定した好調な月の1つではあったが、以前程の好調な月にはならなかった。ペーパーレス化、原材料仕入れ価格の高騰、人件費や間接経費の上昇など経費増の影響が大きい。中々この状況を打開する施策を遂行できず、足踏み状態が続いている。

<窯業・土石製品>

9. 生 コ ン・10月の出荷数量は、対前年同月比15%減少であった。10月においても、大幅な減少傾向は続いており、先行き不透明となっている。要因として、新規大型公共工事の減少や資材費の高騰、現場監督の不足により予算執行が進んでいないことが挙げられる。さらに、出荷数量の大幅な減少を受け、生コン単価を引き上げる方向で進めている。
10. 生 コ ン・10月の出荷量は昨年同月と比べて約11%増加。昨年度が急激な出荷量の減少であったため、今年度は増加した月が多いが、トータルで考えると官工事の出荷量が増加しているとは言えず、むしろ減少している状況だ。ここまでの官工事の発注状況を考えると下半期は厳しくなりそうだ。

<鉄鋼・金属>

11. 鉄 鋼・業況感に大きな変化はなく概ね横ばいで推移している。また、売上げ・生産活動についても、緩やかな回復を維持しているが、弱い動きも見受けられることから、今後の景気回復が期待されるところである。
12. ス テ ン レ ス・景況感として、当組合における肌感としては先月に比べ大きな変動は感じられない。国内経済では、米国の通商政策の影響を受けつつも、個人消費や企業の設備投資において緩やかな持ち直しの動きが見られる一方、先行きは概ね横ばいの見通し。海外経済において、主な市場となるユーロ圏では景気の持ち直しの鈍化が見られる。以上の状況から需要に大きな変動は見られなかったが、新内閣の動向に期待を寄せるところである。

<一般機器>

13. 機 械 金 属・一部には景況感の持ち直しの動きも見られるものの、引き続き、原材料費、労務費、エネルギーコストの高騰に加え、経済・外交政策の変化や国際情勢の緊迫化など、諸々の不安定要因により、先行きが見通せない不透明な経営環境に大きな変化は見られない。また、従業員の確保や生産性向上、人材育成などが、依然として、経営上抱える課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸 売 業>

14. 食 糧 卸・令和7年度産米は、農協等が生産者に払う概算金が高く“売れず、下がらず”になりそうです。

<小 売 業>

15. ショッピングセンター・インバウンド船寄港やイベント開催(3日間)などで組合店売上は安定していたように思える。テナントでは飲食店、アミューズメントスペースが安定した売上をキープしている。今後は年末年始へ向けてのイベントで集客をアップし売上に繋げていきたいと思う。
16. ショッピングセンター・全館の売上は100.1%、客数は97.7%で客単価は102.5%です。食品は100.5%となっております。衣料は全国展開しているチェーン店が非常に好調で全体を押し上げ110.2%、身の回り品98.5%、住居関連は90%と落しています。販売価格は102.5%と客数が減っている分上がっています。
17. 電 気 機 器・2027年末に蛍光灯生産終了なのでLED化の問合せが増えてきている。早めの取り組みが必要。補助金情報も重要！

18. 畳 ・個人住宅表替が増えてきた。営業用と新築は低調。産地の水害の影響で、畳表の入荷が少なく、在庫が少ない。待ってもらえるところは、先に延ばしている状態が続いている。見積りの件数も増えている。

<商店街>

19. 徳島 市・10月も秋らしさが感じられず、重衣料が動かないため、単価(客単価)が上がらなく厳しい状況が続いています。

20. 鳴門 市・特に変化はございません。

<サービス業>

21. 自動車整備業・10月度の自動車登録状況について、登録車、軽自動車ともに中古車登録台数のみ前年を上回ったが、新車登録台数は前年を下回った。どちらも対前年度比5%減となり、トータルでは2%減となった。原材料費や輸送費などの高騰に伴う車両価格の相次ぐ値上げや、消費者のクルマに対する低価格志向が強まっていることも、トータルで見るとリスク要因である。収益状況の目安とみている継続検査の台数は、登録車が対前年比0.1%増、軽自動車は6.9%増となった。整備士の確保に伴う人件費の上昇や、仕入れ価格の高騰で整備部品の値上がりが進むなど整備コストは上昇が続いているが、コスト上昇分の価格転嫁が思うように進んでいないことも、結果的に売り上げを一定水準確保していながら利益を計上できない要因のひとつだ。

22. 宿泊 業・県西部の施設においては良好で宿泊客の40%がインバウンドで昨年に比べ増加している。しかし団体客の方が減少してほとんどない状態。市内の施設においては昨年と比べ稼働率が60%と増加している。

23. 旅行 業・10月は旅行業において、一番の繁忙期です。組合員全体をみると、コロナ禍以前の売上げにちかくなっていますが、新しく出来た法改正による制限また、需要があっても人材を確保できない等で会社への利益増になかなか繋がらない会員がいます。後継者不足で、今年度いっぱい廃業の会員もいます。後継者問題は、他にも多数の会員の課題で、後何年続けていけるかというお声が多数あります。個人旅行等はネットで簡単に予約できるようになり、バス兼業ではない、旅行だけの会員は厳しい現況となっております。

24. 土木建築業・○設計人数(少数減)：前年度と大差なし。○人員増加(企業努力)による設備追加：電子機器入替。○収益・施設投資：収益減額。施設投資は前年月と同額。組合50台強(PC本体・ソフト)の更新1000～1200万。10月中に組合PCの更新。○設備操業度：持ち帰り業務・事務所維持管理(河内事務所21名・貞光事務所8名)○雇用人員：設計人数(2～3名減)、+2～3名追加配置。支援業務：病欠等で急遽交替員配置。○業界の景況：先月と大きな変化無し。

25. ビル管理・前年同期と比べ大きな変化はありません。各社においては、令和8年1月の最低賃金改定を見据えた契約先との本格的な価格交渉を行っておりますが、厳しい状況です。ビルメンテナンス業は労働集約的産業であるため人手不足への対応も必要であり、原材料費等のコスト削減も限界に近づきつつあります。そのため、国及び県の中小企業支援策を有効に活用し、経営への大きな影響を軽減する必要があると考えています。宿泊業においては、大規模なイベント開催があり県外観光客の増加とインバウンド観光客の増加に伴い稼働率が高くなっています。

<建設業>

26. 鉄骨・鉄筋工事業・県内の仕事は相変わらず少なく、加工単価も下がって注意が必要。来年にかけての仕事量の確保に苦勞しそうで最大限の努力が必要である。見積りで鉄骨は高いと言われる。建家の仕事が少なく、雑工事や橋梁金物が主になっているところもある。
27. 建設業・国、県、市町村の発注工事件数、請負額は減少している。
28. 板金工事業・工事件数は少ないままの状態が続いています。公共工事、大型物件もでていますが例年より少ない状況が続いています。一般住宅、リフォーム工事も少ない状態が続いています。
29. 電気工事業・徳島県内 令和7年10月分の戸建住宅新築件数132件(前年比80.5%)

<運輸業>

30. 貨物運送業・10月の売り上げ実績は対前月比△22%、対前年同月比+15%、累計前年度比+14%、利益対前月比△13%、対前年同月比+1%、累計利益は対前年度比+4%となりました。契約件数、取引高とも前年プラスで推移しています。全国組合の傾向として、新政権への期待感を受けた株価上昇が生産拡大や設備投資への追い風となり取引高は前月比108%と報告されています。関東、近畿等一部の地域でプラスですが、中四国等マイナスの地域もある等累計では前年度対比マイナスが現状です。運転手不足は深刻になりつつあり、外国人ドライバー採用に向け積極的に動く会員も数社出てきました。
31. 貨物運送業・昨年より4名の組合員加入があり平均年齢が下がった。高齢組合員の引退は待った無しの状況なので、今後も引き続き組合員加入に力を注いでいく。ガソリン暫定税率が廃止の見通しとなり、組合員の中で今後どうなるのかの話題で賑わっている。良い事ばかりではないかも知れないが、まずは変化する事に期待をしたい。
32. 貨物運送業・青果は天候不順により作物の収穫が遅れているようで、輸送が減っている。ドライバー不足はかなり深刻な状態で、人手不足のため、実働率の低下が進んでいる事業者の声が多く聞かれる。